

世田谷村日記

石山修武

た。と考えられる。夜、予定通りホテルオークラで学科の将来について話し合う会。

六月十九日

午前中国立神保邸訪問。私が五年前に建てて差し上げた「おばさんの家」である。友人達と七人で展覧会を自宅で開催しているのを見せていただいた。

神保さんは大変お元気そうで、とても家を気に入ってくれているようで安心した。中もきれいに使って下さっていて、この家は成功したなと得心した。住んでいる人が元気はつらつとしているのに会うのは嬉しいものだ。スケールと素材の使い方にミスが無かった。二階に居間その他の主要な生活の場を持ち上げたのもうまくいったようだ。北のテラスも上手に使われていた。女性のための家づくりに関しては我ながら肩の力が抜けて依頼主の言うがままにすることが多く、それが家の全体にある種のゆるやかな受容力を備えさせることになっている。依頼主によって私も開放されているのかな。女性にただ弱いのだと言うのが本当のところかも知らん。面目ない。

中国の都市計画のコンペには二五〇二八に出掛けなくてはならなくなった。北九州市ビル工場跡地の仕事も進めるつもりなので今夏はワークショップは無理だな。

六月二〇日

午前中世田谷市場打合わせ。午後理工学部長選挙。その結果、建築学科はむづかしくデリケートな運営を強いられることになっ